近畿大学病院麻酔科専門研修プログラム

（大都市圏あるいは大学のモデルプログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

専門研修基幹施設である近畿大学病院（以下、近大病院），近畿大学奈良病院（近大奈良），育和会記念病院，若草第一病院，耳原総合病院，岡波総合病院，和泉市立総合医療センター，淀川キリスト教病院，千船病院，りんくう総合医療センター，大阪府済生会吹田病院，沖縄協同病院，樫本病院，国立循環器病研究センター，大阪母子医療センター，奈良県立医科大学附属病院，明石医療センター ，大阪警察病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

近大病院は、外科（上部消化管、下部消化管、肝・胆・膵、乳腺外科、小児外科、肺外科)、心臓外科、脳神経外科、泌尿器外科、産科婦人科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科、眼科や歯科・口腔外科と外科系すべての科があり、多くの症例が経験できる。特に、食道外科や肺外科が多く片肺換気の管理や、心臓外科では大人の幅広い症例のみならずチアノーゼ疾患を含む小児心臓手術も多く経験できる。また、未熟児網膜症や小児カテーテルアブレーションといった特殊な手術の麻酔管理も経験できる。ペインクリニックや集中治療医学のレベルも高く、サブスペシャリティー領域も充実している。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち６ヶ月は，専門研修基幹施設で研修を行う.
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する.
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B)，ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C)，集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する.
- 地域医療の維持のため，最低でも３ヶ月以上は地域医療支援病院である○○市民中央病院で研修を行う.

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン）	D（集中治療）
初年度前期	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）
初年度後期	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）
２年度前期	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔）
２年度後期	本院（麻酔）	本院（麻酔）	本院（麻酔, ペイン）	本院（麻酔, 集中治療）
３年度前期	本院（麻酔，ペインまたは集中治療）	本院（小児麻酔）	本院（麻酔, ペイン）	本院（麻酔, 集中治療）

３年度後期	本院（麻酔，ペインまたは集中治療）	本院（小児心臓麻酔）	本院（麻酔，ペイン）	本院（麻酔，集中治療）
４年度前期	研修施設	研修施設	研修施設	研修施設
４年度後期	本院（麻酔，ペインまたは集中治療）	本院(麻酔, ペインまたは集中治療）	本院（麻酔，ペイン）	本院（麻酔，集中治療）

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

近畿大学病院（以下，近大病院）

研修プログラム統括責任者：中嶋　康文

専門研修指導医：中嶋　康文（麻酔，集中治療）

大田　典之（麻酔，集中治療）

湯浅　晴之（麻酔）

中山　力恒（麻酔）

冬田　昌樹（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

岩元　辰篤（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

上原　圭司（麻酔，ペインクリニック）

松島　麻由佳（麻酔，ペインクリニック）

北浦　淳寛（麻酔，集中治療）

松本　知之（麻酔，ペインクリニック）

辻本　宜敏（麻酔）

法里　慧（麻酔）

穴田　夏樹（麻酔，集中治療）

髙岡　敦（麻酔）

専門医：藤井　真樹子（麻酔，ペインクリニック）
古藤　大和（麻酔）
石﨑　智哉子（麻酔）
石原　怜子（麻酔）

第112号 研修委員会認定病院取得
特徴：①当院は心臓手術や小児手術など様々な特殊麻酔を経験することができます。特筆すべきは小児を含む心臓血管麻酔はJB-POT試験問題委員が直接指導を行っていることです。
②サブスペシャリティ領域のペインクリニックや集中治療分野に関しても、研修期間中にローテーションが可能で、各分野の専門医が熱意をもって指導しています。
③国内、海外留学も希望に応じて可能なことも魅力の１つです。
④医局全体でハラスメント対策を徹底し、年齢や学年間の垣根を越えて、忌憚の無い意見が言える楽しい職場を心掛けています。

② 専門研修連携施設

近畿大学奈良病院（以下，近大奈良病院）
研修実施責任者：杉浦　順子
専門研修指導医：杉浦 順子（麻酔）
鎌本　洋通（麻酔）
出口 文華（麻酔）
平山　果与子（麻酔）

第1373号 研修委員会認定病院取得
特徴：当院では、呼吸器外科手術や脊椎手術症例が比較的豊富である。また、手術室だけで無く、血管造影室（手術室外）での全身麻酔症例（2025年度　173例）を経験できる。

③ 専門研修連携施設

医療法人育和会 育和会記念病院（以下，育和会記念病院）
研修実施責任者：中村　正人
専門研修指導医：中村　正人（麻酔）
岩崎　英二（麻酔）

第1213号 研修委員会認定病院取得

特徴：２次救急病院であり、地域医療を担っている。整形外科、一般外科、泌尿器科の症例が多いが、地域の特性もあり高齢者の占める割合が高い。

④ 専門研修連携施設

社会医療法人 同仁会 耳原総合病院（以下，耳原総合病院病院）
研修実施責任者：杉山　円（麻酔）
専門研修指導医：杉山　円（麻酔）
専門医：杉山　円（麻酔）
　　中村　佳世（麻酔）
　　江尻　加名子（麻酔）
　　西田　宙夢（麻酔）
　　黒澤　すみれ（麻酔）
　　坂本　悠篤（麻酔，集中治療）

第1679号 研修委員会認定病院取得
特徴：術前術後の管理症例の回診、研修指導、緩和ケアペインクリニックのコンサルトを行っています。科をこえた協力体制があり、安全な環境での研修が行えます。

⑤ 専門研修連携施設

社会医療法人若弘会 若草第一病院（以下，若草第一病院）
研修実施責任者：林　真美　（麻酔）
専門医：　林　真美　（麻酔）

第1534号 研修委員会認定病院取得
特徴：地域医療支援病院、大阪府がん診療拠点病院、救急・急性期病院、臨床研修病院、24時間、365日緊急手術対応可能。

⑥ 専門研修連携施設

社会医療法人 畿内会 岡波総合病院（以下，岡波総合病院）
研修実施責任者：髙井　規子（麻酔）
専門医：髙井　規子（麻酔）
　　中尾　慎一（麻酔）

第1233号 研修委員会認定病院取得
特徴：三重県、伊賀／名張地域の二次救急病院として、地域医療に貢献しています。

⑦ 専門研修連携施設

和泉市立総合医療センター（以下，和泉市立総合医療センター）

研修実施責任者：稲森　雅幸

専門研修指導医：梶川　竜治（麻酔）
稲森　雅幸（麻酔）
橋村　俊哉（麻酔）
若林　美帆（麻酔）

第1788号 研修委員会認定病院取得

特徴：全身麻酔の基本手技を重点的に研修する。脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔のほか、閉鎖神経ブロックや四肢の神経ブロックなど区域麻酔の症例が豊富でる。

⑧ 専門研修連携施設

淀川キリスト教病院（以下、淀川キリスト教病院）

研修実施責任者：小畑　友里江（麻酔）

専門研修指導医：小畑　友里江（麻酔）
川口　理佐（麻酔）
佐藤　仁信（麻酔、集中治療）
奥野　亜依（麻酔）
平家　史博（麻酔）

専門医：上田　浩平（麻酔）
不二樹　有花（麻酔）
山崎　克晃（麻酔）
田村　あゆ（麻酔）
岡田　薫（麻酔）
穆　慧麗（麻酔）

第548号 研修委員会認定病院取得

特徴：ほぼ全ての科を有しており、必須症例を網羅することができます。特に小児症例、帝王切開症例は豊富です。また、心臓血管麻酔の指導者も充実しており、経食道心エコーについては早期にJB-POT認定試験に合格できるよう実技指導を行っています。集中治療とペインクリニックも希望者はローテーション可能です。毎週定期的に勉強会や抄読会を行っており、学会発表や論文作成の指導にも力を入れています。専門医取得の先を見据えた研修ができるように取り組んでいます。

⑨ **専門研修連携施設**

社会医療法人愛仁会千船病院（以下、千船病院）
研修実施責任者：角　千里（産科麻酔）
専門研修指導医：角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）
平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）
戸尾　まゆみ（麻酔）

第：770 号 研修委員会認定病院取得
特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくいcommon　diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年、うち全身麻酔は2,233件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6床)、NICU（15床)、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

⑩ **専門研修連携施設**

地方独立行政法人　りんくう総合医療センター（以下，りんくう総合医療センター）
研修実施責任者：神移　佳
専門研修指導医：神移　佳（麻酔・ペインクリニック）
小林　俊司（麻酔）
米本　紀子（麻酔・ペインクリニック）
水田　大介（麻酔）
久保　直子（麻酔・集中治療）
専門医：林　文昭（麻酔・ペインクリニック）

熊野　景太（麻酔）
西村　俊輝（麻酔）
小野　洋平（麻酔）
林　大貴（麻酔）

認定病院番号；812
特徴：　りんくう総合医療センターには、大阪府泉州救急救命センター、泉州広域母子医療センター、心臓センター、重症外傷センター、急性期外科センター、脳神経センター、脊椎センター、人工関節センターなどがあり、難度の高い手術麻酔症例が豊富に存在する。こうした当センターの特長を活かし、各種麻酔領域の症例数を十分経験すると共に、集中治療、救命救急、ペインクリニック、緩和医療など、専攻医の希望するサブスペシャルティに、リンクしていくことも可能である。なお、りんくう総合医療センターは、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本集中治療医学会専門研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設に指定されている。

⑪ 専門研修連携施設

社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会吹田病院
研修実施責任者：荒木　竜平
専門研修指導医：荒木　竜平（麻酔）
上田　雅史（麻酔・集中治療）
川上　真樹子（麻酔）
城村　佳揚子（麻酔）
竹村　瞳(麻酔)
添田　理恵（麻酔）

麻酔科認定病院番号：499
特徴：大阪府吹田市の中核的病院で，臨床研修病院をはじめ，地域医療支援病院や大阪府がん診療拠点病院などの指定を受けている.

⑫ 専門研修連携施設

沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院（以下，沖縄協同病院）
研修実施責任者：外間　梨香
専門研修指導医：外間　梨香（麻酔）
座波　政美（麻酔）
専門医：川合　健志郎（麻酔）

認定病院番号：1697
特徴：急性期医療に力を入れているため様々な手術の麻酔を経験することができる.

⑬ 専門研修連携施設

医療法人樫本会 樫本病院（以下，樫本病院）
研修実施責任者：小野　稔
専門研修指導医：小野　稔（麻酔）

第1622号 研修委員会認定病院取得
特徴：全身麻酔症例の約7割は整形外科の外傷で、残り外科・泌尿器科とバリエーションはあまり多くないが、病院の特性上比較的高リスクの患者が多い。

⑭ 専門研修連携施設

国立循環器病研究センター（以下，国立循環器病センター）
研修実施責任者：金澤　裕子（麻酔）
専門研修指導医：金澤　裕子（麻酔）
前田　琢磨（麻酔）
南　公人（麻酔）
下川　亮（麻酔）
月永　晶人（麻酔）
森永　將裕（麻酔）
三浦　真之介（麻酔）

第168号 研修委員会認定病院取得
特徴： センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月 1 回程度あります。麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医 2 名が当直、オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています。

⑮ 専門研修連携施設

大阪母子医療センター（以下，大阪母子医療センター）
研修実施責任者：竹下　淳（小児・産科麻酔）
専門研修指導医：竹下　淳（小児・産科麻酔）

川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児・産科麻酔）
増茂　薫（小児・産科麻酔）
阪上　愛（小児・産科麻酔）
西垣　厚（小児集中治療）
専門医：征矢　尚美　（小児・産科麻酔）
栗畑 綾香　（小児・産科麻酔）
佐伯 淳人　（小児・産科麻酔）
井川 大輝　（小児・産科麻酔）

第260号 研修委員会認定病院取得
特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科）、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科）、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科）、口唇口蓋裂（口腔外科）、小耳症、母斑、多合指(趾)症（形成外科）、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科）、斜視、未熟児網膜症（眼科）、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科）、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科）、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRI などの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

⑯ 専門研修連携施設

奈良県立医科大学附属病院
研修プログラム統括責任者：川口　昌彦
専門研修指導医： 川口　昌彦
惠川　淳二（集中治療）
内藤　祐介
西和　田忠（医療安全）
田中　暢洋
位田　みつる
阿部　龍一
野村　泰充
植村　景子
小川　裕貴
紺田　眞規子
松浦　秀記

奥田　千愛
川瀬　小百合
宮島　沙希
専門医：渡邉　恵介(ペインクリニック)
林　浩伸
藤原　亜紀(ペインクリニック)
佐々木　由佳

麻酔科認定病院番号 51
特徴：手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和医療を研修することができます。手術麻酔では、心臓血管外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳外科麻酔、胸部外科麻酔科に加え、大学病院として先端的な医療や重症例を経験できます。小児心臓外科麻酔、新生児手術、無痛分娩も経験できます。麻酔専門医だけでなく、集中治療、ペインクリニック、心臓血管麻酔、緩和ケアなどのサブスペシャリティーの専門医やの取得もサポートさせていただきます。

⑰ 専門研修連携施設

社会医療法人愛仁会　明石医療センター
研修実施責任者：多田羅　康章
専門研修指導医：多田羅　康章（麻酔、集中治療）
岡本　健志（麻酔）
藤島　佳世子（麻酔）
松尾　佳代子（麻酔、産科麻酔）
濱崎　豊（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
山崎　翔太（麻酔、心臓血管麻酔）
米田　優美（麻酔）
西　進介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1166
特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている。全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理や脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行い、区域麻酔の技術習得を目指します。また、心臓大血管外科症例を通して JB-POT ならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や、集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です。

⑱ 専門研修連携施設

大阪警察病院

研修実施責任者：柴田　晶カール

専門研修指導医：北　貴志（麻酔）

井上　潤一（麻酔，ペイン）

一澤　真珠（麻酔、ペイン）

寺西　理恵（麻酔）

上田　篤史（麻酔）

竹田　峰子（麻酔）

小山　英彦（麻酔、集中治療）

柴田　晶カール（麻酔）

池田　真悠実（麻酔，ペイン）

専門医：李　太訓　（麻酔）

久保　飛鳥（麻酔）

孫　寅硯　（麻酔）

竹山　恵梨子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：295

特徴：循環器、救急を含めて症例数の多い急性期病院であり小児外科を除くほとんどの科の症例が研修できる。

また日本麻酔科学会麻酔科認定病院のほか、日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設、日本集中治療医学会学会認定専門医研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設も取得しておりサブスペシャリティの専門医取得も可能です。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，近畿大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

近畿大学病院　麻酔科　中嶋　康文

大阪府堺市南区三原台1丁14番1号

TEL 072-288-7222（内線 2010）

E-mail　nakajima-s@med.kindai.ac.jp

Website　www.med.kindai.ac.jp/anes/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる.また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する.研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う.研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての○○病院，○○病院，○○病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．